

えいこんじはいじ 栄根寺廃寺

栄根寺は、川西市の^{てらぼた}寺畑にあったお寺です。



以前は、江戸時代（約 300 年前ごろ）に建てられたお堂がありましたが、^{はんしんあわじだいしんさい}阪神淡路大震災の時に倒れてしまいました。

お堂の跡の^{あと}発掘調査では、^{へいあんじだい}平安時代の後半（約 900 年前）に建てられたお堂の跡が見つかりました。



人が立っているところが、^{はしら}柱の跡です。中央には、^{ぶつぞう}仏像を置いていた^お須弥壇という台の跡も見つかりました。現在この場所は、^{げんざい}栄根寺廃寺史跡公園になっています。

発掘調査では、^{ならじだい}奈良時代（約 1200 年前）の瓦なども見つかりました。栄根寺が、奈良時代に建てられたお寺であることがわかります。



阪神淡路大震災まであったお堂には、平安時代に作られた、^{やくしによらいぎぞう}薬師如来坐像が置かれていました。この像は、^{していぶんかざい}県の指定文化財になっています。

現在は、^{ぶんかざいしりょうかん}文化財資料館に保管されています。

ひとくらずみ きくずみ 一庫炭 (菊炭)



川西市の北部の、^{くにきまき}国崎・^{くろかわ}黒川・一庫では、昔から炭作りがよく行われていました。ここで焼かれた炭は一庫炭と呼ばれています。一庫炭は、クヌギを^{ざいりょう}材料にして作ります。炭を切った^{だんめん}断面が菊の花のように見えるため、菊炭とも呼ばれています。お茶会の席などでよく使われていました。



400年以上の^{れきし}歴史を持つ一庫炭ですが、電気やガスが使われる^{げんざい}現在では、炭を使うことも少なくなりました。炭を作る人も少なくなりましたが、黒川で^{いっけん}一軒、今も炭焼きの^{でんとうぎじゆつ}伝統技術を守っています。



一庫炭の材料となるクヌギは、下にずんぐりとした太い^{みき}幹がある変わった姿をしています。これは、^{だいぼ}台場クヌギと呼ばれています。太い幹からは、新しい細い幹が何本も生えてきて、この細い幹が炭の材料になっています。切った幹からは、新しく幹が生えてくるので、太く育てばまた炭の材料にすることができます。